

公立大学法人青森公立大学

令和 6 年度 業務実績評価書（案）

令和 7 年 月

青森市地方独立行政法人評価委員会

目 次

I	評価の基本的な考え方等	1 頁
II	全体評価	
1	総評	3 頁
2	業務の実施状況	4 頁
3	組織、業務運営等に係る改善事項等	4 頁
III	項目別評価	
1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）	5 頁
2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	6 頁
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	7 頁
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	8 頁
5	経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	8 頁
6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	9 頁
7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	9 頁

I 評価の基本的な考え方等

青森市地方独立行政法人評価委員会は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（令和5年法律第58号）附則第3条第3項の規定に基づき、公立大学法人青森公立大学（以下「法人」という。）の令和6年度における業務実績について評価を行った。

評価の実施に当たっては、当評価委員会が定めた「公立大学法人青森公立大学事業年度評価実施要領（令和4年3月24日改正）」に基づき、法人の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

1 項目別評価

中期計画に掲げる次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事業の外形的な進捗状況を評価する。

【大項目】

- ① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）
- ② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）
- ③ 地域貢献に関する目標を達成するための措置
- ④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- ⑤ 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- ⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
- ⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

【5段階評価】

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、令和6年度における業務実績の全体について、記述式により市民にわかりやすい表現等に努めながら総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

3 青森市地方独立行政法人評価委員会委員

区 分	氏 名	役 職 等
委 員 長	成田 昌造	青森中央学院大学 経営法学部 教授
委 員 (委員長職務代理者)	荒関 浩巳	公立大学法人青森県立保健大学 事務局長
委 員	長内 琢己	株式会社青森みちのく銀行 常務執行役員青森地区営業本部長
委 員	今 孝彰	日本公認会計士協会東北会青森県会 会員
委 員	田中 正子	青森商工会議所 議員

Ⅱ 全体評価

1 総評

公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。

第3期中期目標期間（令和3年度から令和8年度まで）の4年目となる令和6年度は、高等教育機関として「教育に責任をもつ」という理念のもと、適切な授業運営、成績評価の実施、成績チャートの学生本人への通知・面談時での活用、地域・企業を教育現場とする学修機会の充実等に取り組み、学生を丁寧に育てている多様な教育活動として高く評価できる。

また、キャリア支援・就職サポートについては、低年次生向けのキャリアセンターの概要説明や利用方法等の周知のほか、前年度に設置したミーティングボックスの効果的な活用に取り組むなど、充実が図られており、特に県内就職に向けての様々な取組により、高い就職率の成果につなげたことは、評価できる。

学士課程の学生募集については、事業の継続実施とともに新たな学生募集方策を実施し、少子化が進む中においても高い志願者を確保していることは評価できる。

大学の研究成果の還元については、公開講座数と受講者数で数値的に高い実績をあげているほか、大学の地位を高めたと認められる研究成果を顕彰する計画及び科学研究費補助金等の申請について取り組むなど高く評価できる。

上記のように、「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育・研究）」において顕著な実績をあげていることは、大学が目指す「経営経済の専門性をもった教養人の育成」に十分に貢献しているものと判断できる。

地域貢献については、二大学連携特別公開授業や、スタートアップラボ事業の実施、学生向けの「創業・起業セミナー」の開催等、研究活動と一体的に取り組みつつ、自治体や関係団体との連携も行うなど、地域の大学として、期待された役割を果たしている。

業務運営については、戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換等の運営体制の改善のための手段が確立・実行されており、経営・財務についても、物価高騰や人件費の増加等により資金の減少局面が続いているものの、厳しい環境下でのやり繰りに努めていると評価できる。

計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組み、十分な実績をあげており、令和6年度業務実績としては、中期計画の達成に向けて順調な進捗にあると評価できる。自己評価でA評価とした11件については、今後、S評価となりうると考えられ、更なる研究活動、教育活動を推進し、地域における高等教育機関の核としての役割を期待する。

2 業務の実施状況

大学の教育研究等の質の向上（教育）に関して、学修成果を可視化した成績チャートの学生本人への通知や学生面談を実施し、学生の育成に取り組んでいるほか、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を活用したカリキュラムの改善に取り組んでいる。

志願者の獲得を図るため、一般選抜におけるインターネット出願や公式LINEからの告知により志願者の利便性の向上に取り組んでいるほか、県内外の高校訪問やオンラインも活用した出張講義、進学説明会、オープンキャンパスを実施している。

大学の教育研究の質の向上（研究）に関して、研究成果を地域に還元するため、ホームページや学術リポジトリへの掲載、論纂の刊行、公開講座での積極的な情報発信に取り組んでいる。

地域貢献に関して、各種地域連携活動として、青森まるっとよいどころ祭りの開催や青森市産官学連携プラットフォームでの合同研修・研究発表の開催等を実施している。

業務運営の改善及び効率化に関して、大学運営の参考とするため審議会等の委員等から意見聴取を行ったほか、設立団体の青森市長と法人役員の意見交換を実施している。

経営・財務内容の改善に関して、検定料収入や研究関連収入、その他の外部資金の積極的な獲得活動の実施に加え、内部統制規程に基づく各種監査の実施や教職員の法令遵守に対する意識向上に取り組んでいる。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関して、中期計画の定期的な進捗管理を行うとともに、業務実績等に係る外部評価結果を活用したPDCAサイクルによる継続的な改善に取り組んでいる。

その他業務運営に関して、インフラ長寿命化計画に基づく各種施設・設備の効果的な修繕等により、良好な学修・研究環境の整備に取り組んでいるほか、国際芸術センター青森の青森アートミュージアム5館連携への参画によるアートツーリズム誘客等のPR事業を実施し施設利用の促進に向けた取組を行っている。

3 組織、業務運営等に係る改善事項等

大学院については、志願者確保のための着実な取組は認められるものの、入学定員に満たない状況が続いていることから、その着実な取組に期待する一方で、今後、将来的なあり方も検討していく必要があると考える。

Ⅲ 項目別評価

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
成績チャートの提示をし、成績不振者に対する面談を充実させ、中途退学の抑制に努めていることは、良い取組であり、学修サポートが手厚くできていると評価する。今後の更なる充実に期待する。 授業評価アンケートの設問に「科目の到達目標」の達成度合いを自己評価する項目を追加し、アンケートとしての精度を高める工夫をしており、その結果を図書館で公開している点は高く評価できる。また、アンケートの結果を授業の改善・教育指導につなげる仕組みができていることも評価できる。 フィールドスタディや、演習科目における課外活動を充実させており、座学に偏らず実際の経験に基づく学修機会を増やしているところは高く評価できる。引き続き学生に対する当該取組により、社会に出る前に身につけるべき「自らものを考え行動する」という姿勢を伸ばしていくことを期待する。 入学志望者獲得のために、学長・入学者選抜専門監等をはじめとする学内あげての高校訪問、オンラインを活用した進学説明会、オープンキャンパス、SNS の活用による継続的な学生募集活動に加え、ミニ講義動画作成や大学見学の申込方法の改善等、社会環境の変化に沿った対応に新たに取り組み、高い志願倍率につなげている姿勢は、高く評価できる。 なお、大学院の志望者が入学定員に満たない点は、今後の取組に期待する。 就職活動へのサポートについては、社会環境の変化を踏まえ、オンラインによる採用活動に対応するため、支援体制の充実を図ることで前年度に設置したミーティングボックスの利用件数が約2倍となったことや、県内就職に向けて様々に取り組むなど、キャリアセンターの利用を促進するための施策も良好な実績となっており、その結果として就職率100%を達成していることは高く評価されてよい。学生が早いうちからキャリアセンターを有効に活用し、自己認識、業界理解、マインド向上につなげていき、学生が納得できる就職活動をしていけるように引き続き取組の強化に期待する。 計画項目が非常に多岐にわたる中で、いずれの項目においても着実に取り組まれており十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。			

2	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
過去5年間実績のなかった教員の研究成果に対する顕彰について、一定の件数で実績をあげたことは、研究活動の活性化に資するものと高く評価でき、今後とも研究成果の情報発信の充実等により大学の地位向上に貢献するよう、引き続き積極的な取組を期待する。 地域住民を対象とする公開講座、まちなかラボ等による研究成果の地域への還元を積極的に行い、公開講座数と受講者数の数値において高い実績をあげていることは高く評価できる。教員の研究成果を地域に還元することは、地域の大学として対外的にもその存在価値や地位、認知度を高めることにつながるため、引き続き積極的な取組を期待する。 戦略的研究費の配分実績が増加し、教員の研究環境が充実しているものと推察される。今後についても、引き続き積極的な取組を期待する。 地域の抱える課題の解決に向けた研究を、自治体や関係団体と連携して行っており、地域の大学としての役割を適切に果たしている。 いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価できる。教員の研究実施体制等の整備が充実し、今後より一層研究水準が上昇することが期待できるとともに、地域課題解決のために貢献していくことを期待する。			

3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
大学の教育研究資源や成果を「まちなかラボ」、「地域公開講座」などを通じて地域の方々に還元しており、「地域公開講座」においては、目標回数を超える講座数を実施し、受講者数も前年比約151%となっている点は高く評価できる。 青函圏域交流の新たな取組として、二大学連携特別公開授業を実施し、これまでゼミ単位で行っていた交流事業を大学全体としての交流に拡充した点は高く評価できる。この取組の推進により、さらに研究が充実するとともに、学生同士の交流拡大による視野の広がりにつながるほか、一般市民の受講受入れも、地域貢献の側面において大きな成果が期待できることから、引き続き事前の広報活動にも注力し、より受講者が増えることを期待する。 青森市をはじめとする自治体や産業振興団体等との連携事業に積極的に取り組んでおり、地域の大学として地域産業の活性化と地域人材の輩出に貢献していることは、学生に対する教育面はもとより、これまで以上に地域貢献活動が充実していくものと期待できる。 起業・創業に向けた支援は大変良い取組であると評価できる。すぐに起業・創業につながるケースは多くはなくとも、スタートアップに係る様々なことを勉強、吸収できる貴重な機会を提供できる点が良く、学生の自由で柔軟な発想力を鍛えるためにも有効であり、更なる取組の強化に期待する。 いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。大学開学の理念に基づいた地域貢献に関する事業の実施に努力が認められ、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価でき、最高評価にも近い実績であるとも評価できる。今後、青森公立大学が中心となって、より一層地域連携・広域連携への取組を強化し、この地域における研究活動をリードしていただきたい。			

4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
大学運営の大前提である教員数確保をクリアできている点を評価する。加えて、事務職員を対象とする能力評価及び業績評価の継続実施や、教員職員を対象とする人事評価（自己評価・評価実施）の試行等、年度計画を着実に達成していると認められ、評価できる。令和7年度からの教員職員を対象とする人事評価の本格実施に向けては、万全の準備とともに、今後の実施状況に期待する。 戦略会議の開催、市長と法人役員との意見交換などの運営体制の改善のための手段が確立・実行されている。今後とも有意義なものとして実行されるよう期待する。 いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。			

5	経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
外部研究費の申請が数値目標を上回ったことは高く評価でき、今後とも適切な支援のもと、継続的に実績をあげていくよう期待する。 物価高騰や人件費が増加等により資金の減少局面が続いているものの、外部資金獲得の推進や経費抑制に向けた取組を実行しており、厳しい環境下でのやり繰りに努め、一定の成果をあげていると評価できる。 内部統制強化においても自己評価、監査、コンプライアンス研修を通じた一定の取組が見られている。これらは、大学運営を持続的に行っていくためにも極めて重要な項目であることから、引き続き油断せず取組を強化・継続するよう期待する。 いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。			

6	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
中期計画及び年度計画の進捗管理を定期的に行い、その結果を共有している点や、評価委員会の評価結果及び組織、業務運営等に係る改善事項等への反映状況が、学内外で情報が共有されており、中期計画及び年度計画の進捗管理、点検・評価、改善のサイクルが適切かつ確実に実施されているものと評価できる。 いずれの項目においても着実にかつ適切に取り組まれていることから、総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。			

7	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	評価	4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
教育研究用施設及び設備の修繕・維持工事について、インフラ長寿命化計画に基づき、効率的な予算執行の下で計画的に実施され、教職員及び学生に対して良好な学修環境を提供する取組を実施している点は評価できる。 大学施設・設備の外部貸出に積極的に取り組み、自己収入の確保につなげるとともに、地域の貴重な財産の有効活用にもつなげている。 国際芸術センターの活用について、小中学生を対象とした校外学習プログラムの実施などにより、促進が図られている。 青森アートミュージアム5館連携協議会へ参画し、共同WEBサイト運営、アートツーリズム誘客等のPR事業、及び「AOMORIGOKAN アートフェス 2024」を実施し、国際芸術センター青森への来場者促進を図った点は評価できる。 「ハラスメントに関する手引き」の配付、ポータルサイト等への掲載及びハラスメント相談窓口・相談員の連絡先の学内掲示を行ったこと、また、全ての公立大学に対し、ハラスメント防止体制に関わるアンケート調査を実施するなど、人権意識の向上を図る取組を実施した点は高く評価できる。 いずれの項目においても着実に取り組まれており、十分な実績をあげている。総合的に判断し中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると評価する。			